

# ODAを活用して 海外事業展開を目指す 中小企業



島岡 秀和代表

大阪市 → ベトナム  
(株)丸島アクアシステム

## ダム湖の水環境改善装置を普及し 下流域住民の暮らしと健康を守る



ベトナムのハイフォン港に陸揚げされる丸島アクアシステムの深層曝気装置



チョンダムでの設置工事



ダム深層曝気稼働中の様子

2012年度の外務省委託費事業「案件化調査」の一つとして採択されたのが、ベトナムを対象とした「ダムおよびダム下流水環境改善事業」だ。ダムや河川の水門（取水・放流設備）、水処理設備などに高い技術力を持つ提案企業の（株）丸島アクアシステム（本社：大阪府中央区）は、案件化調査の成果を踏まえ、13年度のJICA普及・実証事業に応募し採択され、16年1月までの予定で精力的に事業推進にあたっている。

ベトナムではこれまで619基のダムが建設され、近年は毎年10数基のダムが新規に建設されている。その一方、課題として浮上してきたのが水環境対策の欠如によるダム湖の水質悪化だ。貧酸素化による水質の悪

化により、ダム湖や下流域での水道水源、さらに河川などを利用する漁業や農業に悪影響を及ぼしているため、その対策が急がれている。こうした情報を同社に寄せたのは、国内公共事業などで提携関係にあり、現地に拠点を持つ（株）日建設計シビル。ベトナムの課題に対応すべく、中小企業海外展開支援制度を使い、丸島の技術と製品の適用化を図ったらどうかという提案を受けた。

案件化調査では、ベトナム国内の複数のダム湖を調査し、ダム貯水池の貧酸素化状況の把握に努め、その水質影響などを確認した。続く普及・実証事業では、案件化調査の結果を踏まえ、ホアビン省のチョンダムに水没式深層曝気装置、コンプレ

ッサー、送気ホースから成る水質保全・改善装置を設置。パイロット試験と水質動向の追跡分析などが行われている。チョンダムの容量は400万立方メートルで、現地では中規模のダム。事業実施に当たる同社技術本部環境エンジニアリング部の矢延孝也部長、同・山岸真孝課長によると、底層の貧酸素化はかなり改善されており、良好な状況を保持しているという。「今回の事業結果を踏まえ、積極的に受注活動を展開していく。事業の公共性から例えば日本の政府開発援助（ODA）への参画や地方政府予算での実施につなげたい」と矢延部長は話している。

.....  
【外部人材参加：（株）日建設計シビル】